

能海寛研究会機関誌『石峰』掲載論文データ

タイトル	能海寛研究会機関誌『石峰』掲載論文データ
編集者名	隅田正三
雑誌名	能海寛研究会機関誌『石峰』
号	第 30 号
ページ	84—87
発行年	2025.3.15
E-mail	Sekihou@haz away.com(能海寛研究会)

ISSN 1883-4183



能海寛研究会機関誌『石峰』掲載論文データ

通番	個人番号	追番	タイトル名	掲載誌データ	著者氏名
1	1	1	能海寛が学んだ「石見学場」	石峰29-48	芦谷 英夫
2	2	1	「能海寛と勤情表」	石峰5-81~86	飯塚 勝重
3	2	2	「哲学館を巡る河口慧海と能海寛」	石峰7-37~43	飯塚 勝重
4	2	3	「能海寛 求法の軌跡」	石峰10-13~21	飯塚 勝重
5	2	4	「能海寛と宗教的立場」 一渡清日記に見る一	石峰20-24~33	飯塚 勝重
6	2	5	「一統教あれこれ『世界に於ける仏教徒』は主張する」	石峰21-14~18	飯塚 勝重
7	2	6	「浄蓮寺蔵書目録と西藏関係書目」 ~御堂用書のなぞ~	石峰22-1~16	飯塚 勝重
8	2	7	「能海寛第三次チベットへの旅立ち」	石峰23-1~8	飯塚 勝重
9	2	8	「能海寛と浄蓮寺史作成について」	石峰24-20~35	飯塚 勝重
10	2	9	「能海寛と長江三峡行」 一哲学館をめぐる能海寛と河口慧海	論集1-188~200	飯塚 勝重
11	3	1	「父法幢と能海寛」	石峰12-52~55	池田 一憲
12	4	1	「チベットを目指した仏教学者能海寛の故郷を訪ねて」	石峰16-7	今枝 由郎
13	5	1	『山の谷間で生まれる論理』	石峰19-44~52	植田 義法
14	5	2	「山の谷間で生まれる論理」 II	石峰20-80~90	植田 義法
15	5	3	「山の谷間で生まれる論理」 III	石峰21-61~69	植田 義法
16	5	4	「山の谷間で生まれる論理」 IV	石峰22-57~63	植田 義法
17	5	5	「能海寛の『空』」	石峰23-60~64	植田 義法
18	5	6	「能海寛の思想をつぐ」	石峰24-61~64	植田 義法
19	5	7	「能海寛の思想と科学」	石峰25-29~32	植田 義法
20	5	8	整えた「能海空の式」	石峰27-90~93	植田 義法
21	5	9	「共にある自然と人道」	論集1-74~92	植田 義法
22	5	10	「整えた『能海空の式』」 その後	石峰28-52~54	植田 義法
23	6	1	「明治における仏教研究の動向」	石峰16-1~6	上山 大峻
24	7	1	「能海寛一チベットを目指した最初の日本人」	石峰2-2~15	江本 嘉伸
25	7	2	もうひとつの夢・チベット探検家能海寛を記念する100キロ遠足を試走して	石峰9-93~94	江本 嘉伸
26	7	3	第一回「能海寛・ふるさと100kmトレイル遠足」 完走記	石峰10-37~46	江本 嘉伸
27	7	4	「伝え続けるといふこと一地平線会議 40年の体験から」	石峰24-1~9	江本 嘉伸
28	7	5	地平線550号で考える能海寛研究のこと	石峰30-1~7	江本 嘉伸
29	8	1	「島根と寧夏の交流の原点」	石峰1-12~24	岡崎 秀紀
30	8	2	「日本アルプスの父W. ウェストンと日本文化の紹介者・小泉八雲」	石峰2-23~34	岡崎 秀紀
31	8	3	「能海寛と日本アルプスの父W. ウェストンとの出会い」	石峰3-1~27	岡崎 秀紀
32	8	4	「慶応義塾時代の能海寛」	石峰5-51~80	岡崎 秀紀
33	8	5	能海寛の生涯と業績業績を紹介した『慶応義塾額報』の「龍北学人」について	石峰6-96~114	岡崎 秀紀
34	8	6	「慶応義塾時代の能海寛」	石峰7-44~64	岡崎 秀紀
35	8	7	「S. ベリーの能海寛論と横死訃傳見解について」	石峰8-12~54	岡崎 秀紀
36	8	8	川村宏氏の論考「ウェストンは能海寛と出会ったか」を読んで	石峰9-46~52	岡崎 秀紀
37	8	9	「能海寛の英語学習と発信の経歴について」	石峰9-74~92	岡崎 秀紀
38	8	10	能海寛に関する最近の中国文献について	石峰10-31~36	岡崎 秀紀
39	8	11	「パリ外国宣教会（MEP）のアーカイブス調査結果について」	石峰11-31~39	岡崎 秀紀
40	8	12	「能海寛の外国文献について」	石峰11-19~28	岡崎 秀紀
41	8	13	フランスにチベット研究のデエ先生とラサル氏を訪ねる	石峰13-26~30	岡崎 秀紀
42	8	14	「能海寛の国際的評価について」	石峰14-13~21	岡崎 秀紀
43	8	15	「能海寛著作集の解説を出版して」	石峰15-20~26	岡崎 秀紀
44	8	16	「能海寛を訪ねる旅：2010年夏の越後路」	石峰16-15~17	岡崎 秀紀
45	8	17	「明治の仏教熱心家、英国人、C. フォンデス」	石峰16-18~36	岡崎 秀紀
46	8	18	「能海寛の父・謙信の学修歴について」	石峰16-37~42	岡崎 秀紀
47	8	19	「能海寛の中国語文献の紹介」	石峰17-15~19	岡崎 秀紀
48	8	20	能海寛を訪ねるたび 2012.5	石峰18-39~54	岡崎 秀紀
49	8	21	『明治のアイルランド人受戒僧 C. フォンデスについてII 報』	石峰19-4~24	岡崎 秀紀
50	8	22	「能海の『最期』を語った、フランス人麿香商人G.ペロンヌを追って」	石峰19-25~39	岡崎 秀紀
51	8	23	「中村博士とチベット仏教求法僧能海寛」	石峰20-34~38	岡崎 秀紀
52	8	24	「能海寛を訪ねる旅20147月寄稿（海外編・国内編）」	石峰20-39~47	岡崎 秀紀
53	8	25	「西藏仏教求法奏能海寛と仏跡復興運動のスリランカ人A.ダルマパーラ」	石峰30-48~69	岡崎 秀紀
54	8	26	「A.ダルマパーラの『日記』と『THE BUDDHIST』を調査して」	石峰21-19~32	岡崎 秀紀
55	8	27	「能海寛を訪ねる旅 フォト紀行（2014-2015）」	石峰21-33~39	岡崎 秀紀
56	8	28	「西洋チベット学の祖、チョーマ・ドケレス、HB.ホジソン、E.ピュルヌーフ M.ミューラー、S.ビール、南條文雄、河口慧海」	石峰21-40~60	岡崎 秀紀
57	8	29	「青海に入った初めての日本人、能海寛の第二次探検ルートの研究」	石峰22-27~47	岡崎 秀紀

通番	個人番号	追番	タイトル名	掲載誌データ	著者氏名
58	8	30	「能海寛を訪ねる旅2016」	石峰22-48～51	岡崎 秀紀
59	8	31	「能海寛著『世界に於ける仏教徒』（明治26年）の研究」	石峰23-9～27	岡崎 秀紀
60	8	32	「補遺 能海寛著『世界に於ける仏教徒』（明治26年）の研究」	石峰24-10～19	岡崎 秀紀
61	8	33	「能海寛を訪ねる旅2018」	石峰24-91～94	岡崎 秀紀
62	8	34	「女性チベット探検家A. D. ネールと河口慧海の出会い」	石峰25-18～28	岡崎 秀紀
63	8	35	「能海寛のチベット探検とフランス人カトリック宣教師の記録」	石峰26-16～43	岡崎 秀紀
64	8	36	「能海寛研究会長岡崎秀紀の調査報告」	石峰26-50～58	岡崎 秀紀
65	8	37	能海寛の明治25年「東京南島紀行」を読む	石峰27-23～34	岡崎 秀紀
66	8	38	総合報告「能海寛と欧州」ー欧州情報と能海のチベット探検ー	論集1-273～286	岡崎 秀紀
67	8	39	「明治ツォンカパ研究小史」（「能海寛のチベット仏教論文を読む」より）	石峰28-1～24	岡崎 秀紀
68	8	40	「能海筆写『白骨の御文』の英訳文」	石峰28-33～43	岡崎 秀紀
69	8	41	「能海の「最期」に関わるランス人宣教師とプラントハンター G.フォーレス」	石峰29-1～8	岡崎 秀紀
70	8	42	「IRFA(フランス・アジア研究所)、MEP(パリ外国宣教会)・サレブ山チベット寺院」	石峰29-37～42	岡崎 秀紀
71	8	43	「チベットセミナー及び中村元記念館能海講座の10年を振り返って」	石峰29-43～47	岡崎 秀紀
72	8	44	2024 能海寛を訪ねる旅 ー臺北大学佛学數位圖書館-	石峰30-8～13	岡崎 秀紀
73	8	45	能海寛と河口慧海 ～二人のチベット仏教求法僧の探検と邂逅～	石峰30-20～26	岡崎 秀紀
74	8	46	1900 年前後の打箭爐・阿墩子に関連して	石峰30-43～56	岡崎 秀紀
75	9	1	「梵語・チベット語学生としての能海寛」	石峰15-54～59	奥山 直司
76	9	2	「能海寛によるチベット語経典の蒐集と日本への送付について」	論集1-28～40	奥山 直司
77	9	3	河口慧海関係資料の検討ー芸術家たちとの交流を例としてー	石峰30-14～19	奥山 直司
78	10	1	チベットの英雄抒情詩『ケサル大王伝』	石峰27-48～59	大谷 寿一
79	11	1	『日本のインド研究』	石峰19-40～43	大前 太
80	12	1	「能海寛研究会25周年記念に寄せて」	石峰25-2	大屋 俊弘
81	13	1	「能海寛の雲南コースについてー清代の入蔵ルートとの比較」	石峰11-10～23	何 大勇(中国)
82	13	2	「日僧能海寛収蔵的四川拓本研究」	石峰24-65～81	何 大勇(中国)
83	13	3	「晚清日僧対巴塘的記述ー以寺本婉雅」為中心	石峰26-44～49	何 大勇(中国)
84	13	4	「私の能海寛研究を振り返って」	石峰27-35～39	何 大勇(中国)
85	13	5	「美干法国天主教士彭神父兄弟の考述」	石峰27-60～75	何 大勇(中国)
86	13	6	「日僧能海寛収蔵的四川拓本研究」	論集1-225～243	何 大勇(中国)
87	13	7	「中国的能海寛研究綜述」	論集1-263～272	何 大勇(中国)
88	13	8	「日僧能海寛来华期间资料蒐集及涉関情况的初步考察」	石峰28-25～32	何 大勇(中国)
89	13	9	「清末民初日本偵探山口升の調査資料整理及初步研究」	石峰29-30～36	何 大勇(中国)
90	13	10	清末对喜马拉雅地域的认识ー以黄懋材(1843-1890)《印度割记》中对喜马拉雅的记述为中心《印度割记》中对喜马拉雅的记述为中心	石峰30-31～42	何 大勇(中国)
91	13	11	「四川の扇子」の解説	石峰30-42	何 大勇(中国)
92	14	1	『能海寛著作集』の完結に寄せて	石峰15-52～53	金子 民雄
93	14	2	『インド四大河川の源』カイラス山とマナサロワール湖	石峰19-1～3	金子 民雄
94	14	3	「能海寛にふれて」	論集1-1	金子 民雄
95	15	1	「ウエストンは能海寛と出会ったのか」	石峰3-30～45	川村 宏
96	16	1	「能海寛のたどった川蔵公路」	石峰2-16～22	桑原 良敏
97	16	2	「能海寛の歩いた川蔵公路」	石峰4-24～35	桑原 良敏
98	17	1	「位鮮為知的日本蔵学家 能海寛」	石峰2-40～41	胡振華(中国)
99	18	1	「能海寛『世界に於ける仏教徒』に見るチベット観」	石峰9-58～73	高本 康子
100	18	2	「1905年能海寛横死報道と日本人のチベット観」	石峰10-6～12	高本 康子
101	18	3	「『入蔵者』イメージと能海寛」	石峰11-24～30	高本 康子
102	18	4	「現代中国における能海寛」	石峰12-1～18	高本 康子
103	18	5	「『教学論集』と能海寛」	石峰13-1～11	高本 康子
104	18	6	「『Wisdom and Mercy』に見る能海寛」	石峰14-1～12	高本 康子
105	18	7	「フィクションの中の能海寛」	石峰15-9～19	高本 康子
106	18	8	『能海寛周辺の人々』～太田保一郎「西蔵」を中心に～	石峰16-8～14	高本 康子
107	18	9	「多田等観とチベット」	石峰17-20～27	高本 康子
108	18	10	「戦時下の『能海寛』」	石峰18-55～62	高本 康子
109	18	11	「寺本婉雅新出資料から見た『能海学』」	石峰20-70～79	高本 康子
110	18	12	「木村肥佐生『日記』について」	石峰21-1～13	高本 康子
111	18	13	「寺本婉雅『蔵蒙旅日記』と横地祥原」	石峰22-17～26	高本 康子
112	18	14	「能海」召喚ー近現代日本と「大陸」	石峰24-36～43	高本 康子
113	18	15	『世界に於ける仏教徒』へー明治仏教が辿った「チベット」への道	論集1-131～145	高本 康子
114	19	1	「菩薩の心」ー「福田」思想と世界平和ー	石峰27-40～47	佐 野賢治

通番	個人番号	追番	タイトル名	掲載誌データ	著者氏名
115	20	1	「能海寛の第一次探検」～1899年四川旅行記から	石峰324-44～60	篠原 由華
116	20	2	「探検中の能海寛の交遊録に関する一考察」	石峰27-11～22	篠原 由華
117	20	3	「1899年第一次探検における能海寛の活動」	論集1-165～187	篠原 由華
118	20	4	「日中提携の気運と能海寛」	石峰29-17～29	篠原 由華
119	20	5	『莫包脚歌』について	石峰30-27～30	篠原 由華
120	21	1	「能海寛研究会25周年を迎えて」	石峰25-2	島田 雅治
121	22	1	「能海寛の宗教観」	石峰4-15～23	品川 知彦
122	22	2	「能海寛の宗教観」一井上円了との比較において一	論集1-122～130	品川 知彦
123	23	1	夢を掴んだ男～能海寛の一生	石峰6-52～77	志波 健二
124	23	2	「高嶋における能海寛の活動」	石峰8-71～77	志波 健二
125	24	1	能海寛の生涯と業績	石峰6-31～51	隅田 正三
126	24	2	「西藏探検行の源流を探る」	石峰11-40～47	隅田 正三
127	24	3	「能海寛の将来した中国・四川省の拓本」	石峰13-31～36	隅田 正三
128	24	4	「能海寛師の深層心理を探る」	石峰15-27～36	隅田 正三
129	24	5	「水野斉入あて書簡（大正6年）を巡って」	石峰16-43～47	隅田 正三
130	24	6	『三迦会』～能海、子安、白山のこと～	石峰17-48	隅田 正三
131	24	7	「能海寛の『新仏教徒』運動の軌跡」	石峰20-91～100	隅田 正三
132	24	8	「能海寛（石峰）と古河勇（老川）の新仏教徒運動」	石峰23-53～59	隅田 正三
133	24	9	「水野斉入宛て書簡に見る『能海寛遺稿』の出版経緯」	石峰24-82～90	隅田 正三
134	24	10	「能海寛生涯目録」	石峰25-35～112	隅田 正三
135	24	11	「能海寛の将来品」	石峰26-61～64	隅田 正三
136	24	12	『能海寛遺稿』の出版経緯一寺本婉雅・水野斉入の書簡から	論集1-41～49	隅田 正三
137	24	13	生涯を懸けた「新仏教徒運動」	論集1-146～164	隅田 正三
138	25	1	「環日本海交流で未来を拓く」	石峰7-1～15	澄田 信義
139	26	1	「能海寛が見たチベット仏教」	論集1-50～73	根敦 阿斯尔 (内モンゴル)
140	27	1	「河口慧海のアジア観」	石峰8-55～62	高山 龍三
141	27	2	日記に見る求道者河口慧海	石峰11-1～9	高山 龍三
142	28	1	川蔵公路旧道の旅	石峰8-63～70	永井 剛
143	29	1	「横断山脈に消えた能海寛」	石峰5-1～50	中村 保
144	29	2	シャングリラ 桃源郷をめぐるトラブル	石峰6-78～81	中村 保
145	29	3	「雲南探検史断章」	石峰18-1～38	中村 保
146	29	4	「雲南のキリスト教」	石峰20-1～23	中村 保
147	29	5	「能海寛が120年前に目指した チベットは今」	石峰25-3～13	中村 保
148	29	6	「Yutaka Noumi missing in Hengduan Mountains of NW Yunnan A Pioneer of Exploring Tibet」	石峰26-1～15	中村 保
149	29	7	「川蔵公路 四川チベット周辺は今」	石峰27-1～10	中村 保
150	29	8	「雲南西北へ消えた能海寛」	論集1-244～262	中村 保
151	30	1	「使用日記」 明治30年	石峰12-29～51	能海 寛
152	30	2	「春秋日記」① (M22～23)	石峰15-37～51	能海 寛
153	30	3	「春秋日記」(M24-27)	石峰16-48～64	能海 寛
154	30	4	「渡清日記」(M31)	石峰17-28～44	能海 寛
155	30	5	「春秋日記」(M32)	石峰17-45～47	能海 寛
156	30	6	「飛越関碑記」(M32)	石峰18-65～72	能海 寛
157	30	7	「純正哲学自解」(M26)	石峰23-28～52	能海 寛
158	30	8	「在渝日記」(M32)	石峰26-75～101	能海 寛
159	30	9	「西藏国地誌略」(M32)	石峰26-102～108	能海 寛
160	30	10	「東京南島紀行」(M23)	石峰27-94～97	能海 寛
161	30	11	「石見瀉高嶋記」(M28)	石峰27-98～103	能海 寛
162	30	12	「丙第九号」(M33)	石峰27-104～116	能海 寛
163	30	13	「純正哲学自解」	論集1-93～119	能海 寛
164	30	14	「手帳記録」① ② ③ ④	石峰28-55～73	能海 寛
165	30	15	「明治26年帰国道中日記」／報恩講巡回日記／東上日記	石峰28-74～75	能海 寛
166	30	16	「阿里能まン満雲枕」	石峰28-76～86	能海 寛
167	30	17	「経緯同盟会々員名簿」	石峰29-61	能海 寛
168	30	18	「入蔵途次見聞雑記」	石峰29-49～55	能海 寛
169	30	19	「まもぼろし三」掲載、(明治25年8月期の日記)	石峰30-57～64	能海 寛
170	31	1	「官話事始め一能海寛のチベット行と中国学習」	石峰10-22～30	万代 剛
171	31	2	『理塘雜記』	石峰19-53～56	万代 剛

通番	個人番号	追番	タイトル名	掲載誌データ	著者氏名
172	31	3	「河口慧海師を育んだ堺を訪ねて～生誕150年～」	石峰22-52～56	万代 剛
173	31	4	「波佐から『令和の地域おこし』」	石峰27-76～89	万代 剛
174	31	5	「能海寛のチベット行と中国語」	論集1-201～214	万代 剛
175	31	6	「ダライ・ラマ」に近づいた日々〈1899年 7月・リタン〉	石峰28-44～51	万代 剛
176	32	1	「入蔵熱の周辺」	石峰13-12～25	平賀 英一郎
177	33	1	「能海寛と『弘法大師一代記』について」	石峰26-59～60	益子 昇
178	33	2	「仏教思想における「位置」について」	論集1-120～121	益子 昇
179	34	1	「近代日本のチャレンジャー－仏者・井上円了と能海寛」	論集1-9～27	三浦 節夫
180	35	1	「満たされた過去」	石峰25-33	村上 香世子
181	36	1	雲南省からチベットへの旅	石峰6-82～95	盛田 武士
182	36	2	「世界無銭旅行者－矢島保治郎」	石峰17-1～14	盛田 武士
183	37	1	「能海寛とチベット仏教」	石峰1-5～11	山口 瑞鳳
184	37	2	「能海寛の悲運」	石峰29-56～60	山口 瑞鳳
185	38	1	大理・麗江を旅して～麗江から西蔵への能海の道小考	石峰5-87～88	由井 格
186	38	2	能海寛終焉の地周辺	石峰8-1～11	由井 格
187	39	1	「能海寛の精神を永続させる！」	石峰4-47～48	姚 詩 (中国)
188	39	2	「能海寛の事績」	石峰6-29～30	姚 詩 (中国)
189	39	3	「能海寛大師への認識を深める」 中文書籍に能海寛大師への名前を初めて発見	石峰10-1～5	姚 詩 (中国)
190	39	4	「能海寛大師的十二漢詩」	石峰18-63～64	姚 詩 (中国)
191	40	1	「ひたすらチベット探検につとめた人・能海寛」	石峰9-53～57	楊 暹 (中国)
192	40	2	「康定と能海」	論集1-215～224	楊 暹 (中国)
193	41	1	「能海寛と西蘭公路の旅」	石峰7-16～36	横田 禎昭
194	41	2	「西蔵求法僧『能海寛の西安から蘭州の旅』」	石峰9-1～29	横田 禎昭
195	41	3	『能海寛著作集』に見る坪井正五郎の人類学講義録	石峰15-1～8	横田 禎昭
196	41	4	「遥かなる拉薩への道」	石峰25-1	横田 禎昭
197	41	5	「妖怪博士」井上円了の妖怪学講義と能海寛の講義ノート	論集1-4～8	横田 禎昭
198	42	1	「Ceiebr for the Nomi Yutaka Institute」	石峰25-14～15	laurnt Deshayes (仏国)